

Part I 農業生産と農業政策 をめぐる論点



講義のテーマ

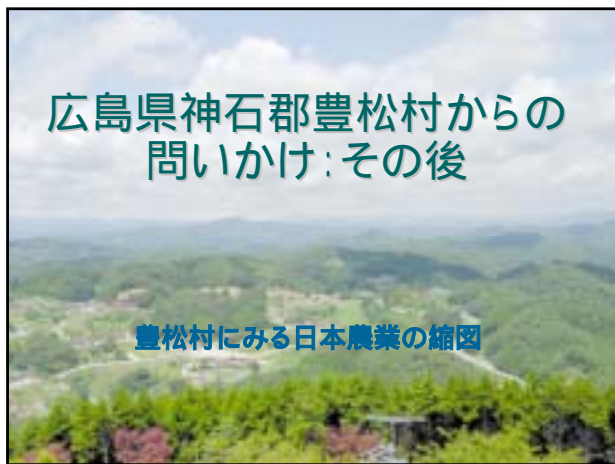
- わが国が食料資源をどのように利用してきたか、広島県神石郡豊松村の事例より、問題点と課題をさぐる

- 1) 中山間地条件不利地の農業・農村のあり方を考える
- 2) 地域農業が抱える問題点をリアルに把握
地域農業資源・環境を維持するために、社会はなにをしなければならないのか？
- 3) 次回の「苦渋する日本農業」への導入

キーワード：中山間地，高齢化，耕作放棄，農業支援

広島県神石郡豊松村からの 問いかけ：その後

豊松村にみる日本農業の縮図



豊松村の概要



豊松村の要請と私たちの視点

村の要請

第三セクターの
事業内容の検討と
その将来展望への
提言

視点1

地域農業および農村社会の状況に対する理解を深めながら、農業公社を中心とした農業支援組織のあり方を検討

視点2

地域住民のニーズを掘り起こしながら、それをどう事業活動に反映させていくかを検討。

視点3

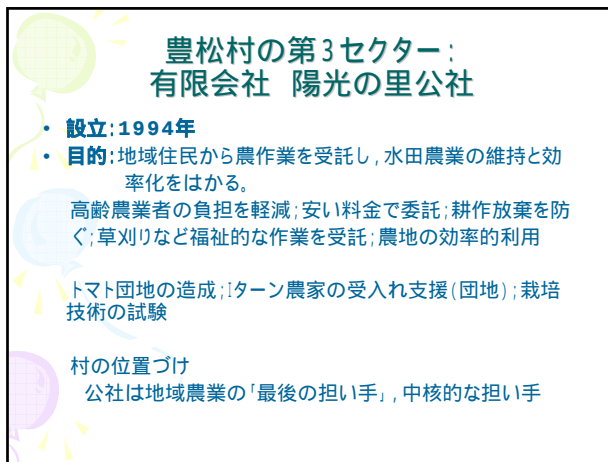
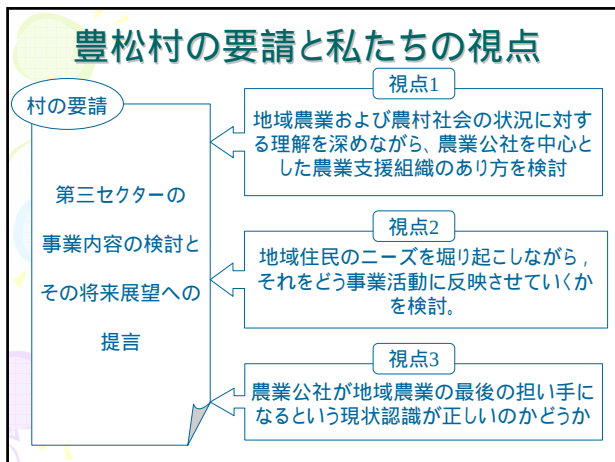
農業公社が地域農業の最後の担い手になるという現状認識が正しいかどうか

豊松村の第3セクター： 有限会社 陽光の里公社

- ・ 設立：1994年
 - ・ 目的：地域住民から農作業を受託し、水田農業の維持と効率化をはかる。
高齢農業者の負担を軽減；安い料金で委託；耕作放棄を防ぐ；草刈りなど福祉的な作業を受託；農地の効率的利用
- トマト団地の造成；1ターン農家の受入れ支援（団地）；栽培技術の試験

村の位置づけ

公社は地域農業の「最後の担い手」、中核的な担い手



任意組合 トマト工房加工組合

- 設立:2001年
- 目的:トマト加工を中心とした農産加工品作りをてがけ、生鮮として販売しにくい規格外品のトマトを有効利用。生産者の手取りを増やす。

第3セクターではないが、村が設立と運営に深く関わっている;村所有の農産物加工処理施設を利用;
地域住民の就業機会と所得をどう増やしていくか?

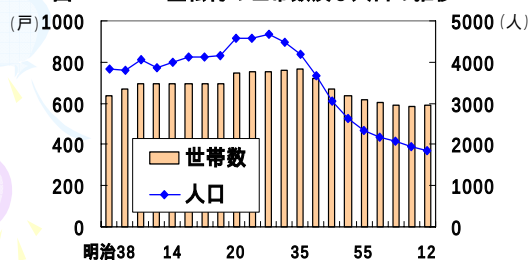
3つの課題をかがけて

課題

1. 豊松村農業の歴史的歩みを踏まえ、農業生産の特徴と問題点を明らかにする。
2. 農業公社およびトマト工房に対して住民がどのような要望を持っているのかを明らかにする。
3. 豊松村の人々が、農業と農業支援組織のあり方を考える際に、有効となるような情報と資料を提供する。

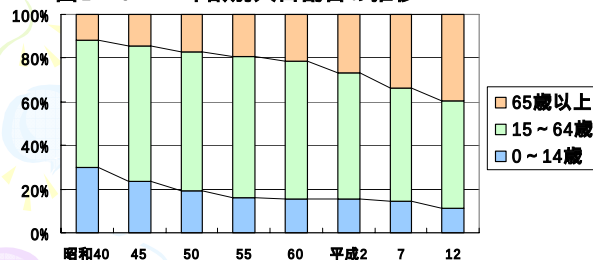
- 総土地面積(約52km²)の8割が森林の山間地域
- 急傾斜地が多く、土地条件に恵まれていない
- 福山市まで約50kmで、通勤・通学が可能
- 人口は、昭和25年のピークを境に急減

図2-2 豊松村の世帯数及び人口の推移



● 高齢化が著しく進行している

図2-3 年齢別人口割合の推移



総人口に占める65歳以上の割合は40%

村の農業と社会:条件不利地の現実

豊松村

- ・ 林野面積が4192ha(総土地面積の80.1%)
- ・ 耕地面積が429ha(総土地面積の8.2%)
- ・ 耕地の多くが急傾斜地で点在。圃場整備率も27%と低い
- ・ 田んぼ一筆あたりの面積が小さい。

条件不利地域

条件不利地域:

WTO農業協定のなかで、農業生産の環境からみても、社会的条件からみても、政府援助の必要性が高いと思われる地域を指している。

=> 多くが「中山間地域」に位置している

(参照) 中山間地域の定義

(参考) 農業地域区分と中山間地域

山間農業地域

林野率80%以上かつ耕地率10%未満の旧市町村または市町村

中間農業地域

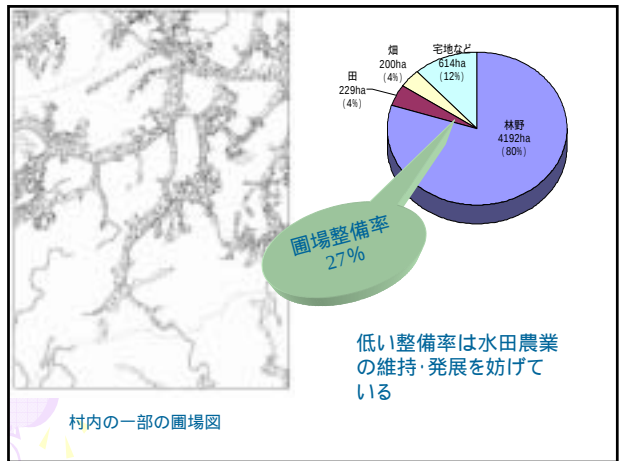
林野率が50-80%で傾斜地の多い市町村

中山間地域

条件不利地の多くが山間農業地域と中間農業地域に位置しているため、これらを一括して「中山間地域」と呼んでいる。

豊松村農業の概要

- 県内屈指のこんにゃく及びトマトの産地
- こんにゃく栽培は急激に減少
市場価格の低迷と栽培農家の高齢化により、20年間で収穫面積は1 / 4に
- トマトは地域振興の重要な位置づけ
トマト団地（ハウス面積4.6ha）の造成
特産品の開発、加工・販売



豊松村農業の変化

表2 - 1

	昭和45年	平成12年	増減率 (%)
総世帯数 (戸)	667	590	11.5
農家数 (戸)	552	396	28.3
農業就業者数 (人)	1669	579	65.3
農業就業人口に占める60歳以上比率 (%)	29.2	78.9	170.2
耕地面積 (ha)	527	270	48.8
うち田の割合 (%)	50.4	61.5	22.0

農業概要1

- 農業就業人口の66.7%が65歳以上
- 1戸当り経営耕地面積は78a(県平均82a)

(販売農家)

表2 - 2 経営耕地面積規模別販売農家戸数 (戸)

0.5ha未満	0.5～1.0	1.0～2.0	2.0ha以上
88	167	68	5
(26.8)	(50.9)	(20.7)	(1.5)
(34.2)	(42.0)	(20.0)	(3.8)

注: () 内は比率、() 内は広島県の比率。

農業概要2

- 圃場整備率は31.9%(県平均58.1%)
- 耕作放棄地率は21.7%(県平均10.3%)

表2 - 3 農業後継者の有無別販売農家数 (戸)

同居農業後継者がいる	うち後継者は農業のみ又は農業が主	他出農業後継者がいる	農業後継者がいない
98	9	135	95
(29.9)	(2.7)	(41.2)	(29.0)
(47.2)	(5.0)	(27.8)	(25.0)

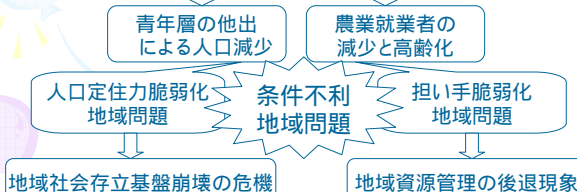
注: 1) () 内は比率、() 内は広島県の比率。

村の農業と社会：条件不利地の現実

豊松村

- ・林野面積が4192ha(総土地面積の80.1%)
- ・耕地面積が429ha(総土地面積の8.2%)
- ・耕地の多くが急傾斜地で点在。圃場整備率も27%と低い
- ・田んぼ一筆あたりの面積が小さい。

条件不利地域



日の郷集落



調査後の話し合い



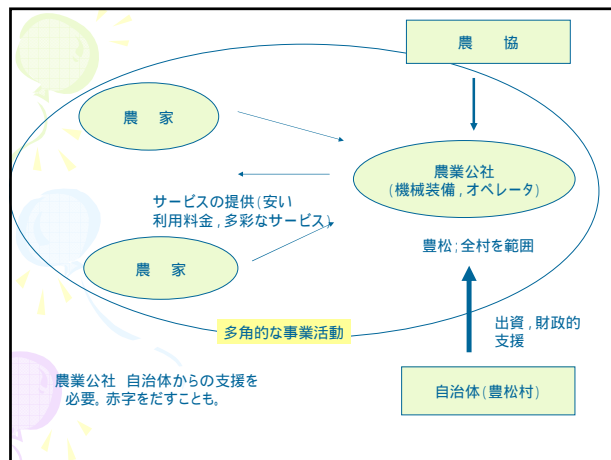
こんにゃく畑の農作業



役場前で集合写真



農業公社の活動と地域資源



◆地域農業構造の弱体化への対応

< 担い手型農業公社に対する期待 >

= 地域農業の **最後の担い手** としての機能

根本的な対応策ではなく
延命処置にすぎない

地域の **担い手育成・支援** を行う機能

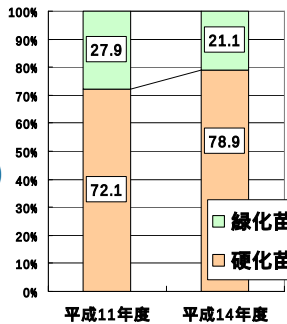
表2 - 4

事業		事業の主な内容
受託事業	育苗田植受託事業	・育苗及び苗の販売(水稲, 野菜, たばこ) ・花・種もみの販売 ・田植え作業の受託
	収穫調整受託事業	・コンバイン作業の受託 ・ライスセンター作業の受託
	農林業等支援事業	・農作業支援事業(草刈り, ハウスかけ等の受託) ・生活環境支援事業(草刈り等の受託) ・森林作業支援事業(間伐, 枝打等の受託) ・農業機械リース事業(トラクター, バックホウなど)
施設等の維持	公共施設管理事業	・広場, 公園, 村道, ゴルフ場などの維持・管理 ・可燃物の運搬
	トマト団地管理事業	・農業機械リース事業 ・ガラスハウス, 格納庫等の管理 ・託児所の経営 ・堆肥の生産及び販売
その他	出向労務事業	・ライスセンター等への出向
	交流事業	・直送品, 写真集等の販売(平成12年度で打ち切り)

< 受託事業量の推移 >

- 減少傾向はライスセンター作業のみ
- トラクター、コンバイン作業の著しい増減は天候が要因

- 育苗事業のニーズが変化してきている
(緑化苗から硬化苗へ)



地域支援機能

「地域支援機能」
公社の公益的な役割・機能

地域農業
支援機能

地域振興
機能

生活支援
機能

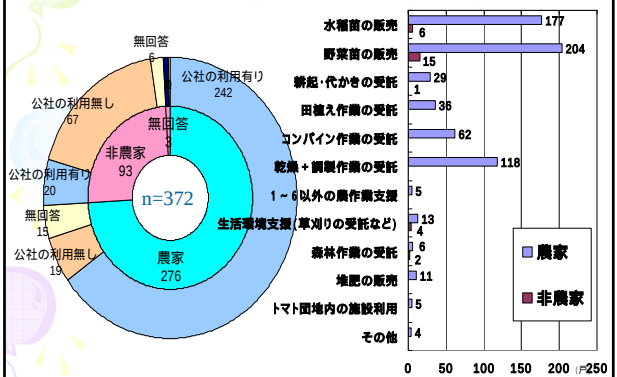
アンケート ページ2

アンケート表紙

陽光の里公社 アンケート結果1

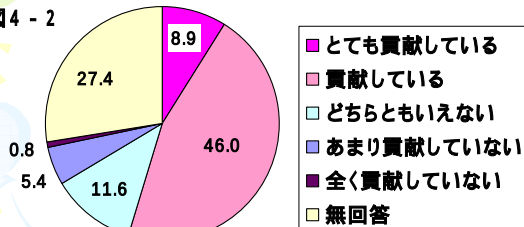
回答世帯の公社利用状況

利用した公社の事業



< 村農業への公社の貢献 >

図4 - 2



公社の活動が村農業の維持・発展に貢献していると考えている住民が多い

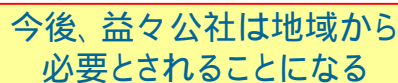
< 特に重要だと思う公社の事業 >

表3 - 2

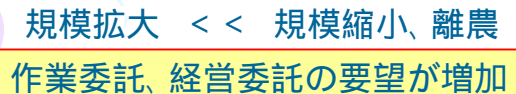
n=257

順位	事業	(%)
1	水稲苗の販売	(77.4)
2	野菜苗の販売	(50.2)
3	乾燥 + 調製作業の受託	(40.5)
4	コンバイン作業の受託	(33.5)
5	田植え作業の受託	(21.8)
5	生活環境支援	(21.8)

n = 283



n = 276



n=181

公社へのニーズが、一部作業の受託から
総合的な受託へ移行してきている

國家安全情報 重要位置 編號	校務系統密碼(檔案) 密碼	校務
----------------	---------------	----

[illegible]

- 経営耕地面積が小さかったことからトマト作への取り組みが早くから行われてきた(川東前・後)。
- 水稲作業機械の共同所有もあり、比較的若い労働力もいる(川東前)。
- トマト作を中止する農家が多く、現在の経営主からのトマト作継承ができていない(川東前・後)。
- 中山間地直接支払制度を活用できないほど、集落における農地管理機能が衰退している(特に川東後)。
- 農業公社などの支援がきわめて重要であり、農地管理など、より直接的な農業生産への関与も必要。

日の郷集落

農家	調査年度年齢、職業別、世帯					経営十世別(所有) 単位						借入 合計	貸付 合計	作付 3/24	耕地面積
	経営主	専業主業	父	母	長男	妻	水田	水灌作	普通畑	新開地	牧草				
2	76	○	74	○		49	170	150	50			40		220	
3	80	○	76	○			130	80	50		10	30		180	
4		86					80	60	100					180	
5	51	○	47	○		83	78	40	80			35		158	
6	76	○	78	○		51	80	40	70					150	
7	55	○	55	82	79		80	20	70					147	1乗
8	60	○	55	80	81	31	105	80	40		2	30		150	
9	52	○	67				50	40				40		135	
10	66	○	67	○			30	50	40					130	
11	55	55	79	○	77	○	80	79	40		10			130	5乗
12	75	○	76			50	85	60	35			45		120	
13	75	○	74	○	94		54	40	60			30		114	
14	72	○	72			51	51	28	45		9			105	
15	74	○				46	55	55	20			50		85	
16	78		75				60	10	30					80	
17	78	○	73				70	35	30			45		75	
18	69		70				60	20	2			20		42	
19		74					40	20				20		40	
20	57	○	55		29		37	27						37	
21		76					16	15	30			15		31	
22		65												30	
23	53				25									20	
24	74	○	72	○											調査終了

- 従来から農家は、経営耕地面積を比較的大きく有しており、水稻+コンニャク+兼業の安定した経済基盤がある。
- 水稻作業機械を個々に所有、新規作目への取り組み必要なし、家としての後継者がいる
- 後継者は確保されているが農業経営へのビジョンは有していない。定年までは考えない。
- 中山間地直接支払制度を契機に共同防除などの取り組みが行われ、集落機能が復活しつつある。
- 農業公社などの利用よりも集落独自の機能で地域農業を維持できる。

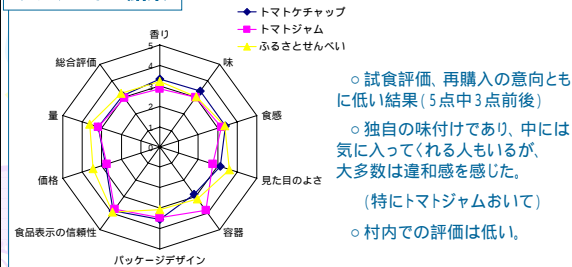


トマト工房加工組合

主婦グループ、学生等の協力により、試食アンケートを実施。

商品価値の無いトマトを有効利用付加価値を付け、販売を行うことを目的にしているが、製品の販売は軌道に乗っているとは言いがたく厳しい経営状況にある。

アンケートの結果



農業公社への提言

- 運営のあり方の再検討
- 採算部門とサービス部門の明確化
- 経営ルール(補助金も含む)の明確化

トマト工房への提言

- 品質の向上(消費者等の意見も考慮)
- 内部体制の充実(効率的に役割分担)
- 経営体質の改善(赤字体質の改善)

豊松村農業の課題と展望

1. 農業生産の担い手

⇒ 様々な農家を担い手として位置づける。

2. 農業公社の機能

⇒ 農作業支援機能のみではなく、農用地利用調整や地域農業振興機能も受け持つ。

3. 農産物加工組合

⇒ 様々なグループの起業化を支援する。

4. 中山間地直接支払制度

⇒ 中山間地直接支払制度を積極的に活用する。
(制度が継続されるかの問題もあるが)

5. 行政合併

⇒ 合併行政において、農業面での指導的役割を發揮する。

中国山地条件不利地域問題へのアプローチ

農業・農村社会が抱えている問題を正しく認識

- 行政がすべての事業を請け負い過ぎてはいないか?
- 地域おこしや農業生産の担い手を狭く限定していないか?

地域住民や諸グループの力をフルに發揮するためのシステムの改善

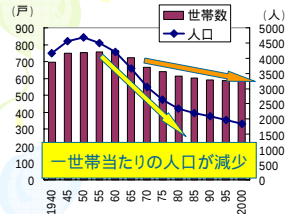


中山間地域農業も悲観的にばかりみることはない

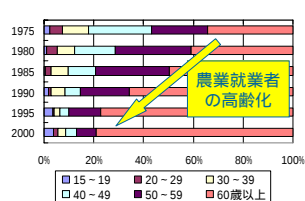
演習問題

- 1) 広島県では中山間地農村に対するさまざまな支援策を実施している。県庁のHP(農林水産部)でどのような事業が実施されているか確認してみよう。
- 2) 広島県では市町村合併が進んでいる。合併は地域の農業にどのような影響をもたらすだろうか。
- 3) 条件不利地農業を維持するメリット、デメリットを論じなさい。

豊松村における人口と世帯数の推移



農業就業人口の年齢別割合の推移



耕作放棄の推移

